

国際社会保障協会 年次報告書 2008-2009 年

「国際社会保障協会 (ISSA) は、各国の社会保障機関を一つにつなげる世界有数の国際組織である。」

「ISSA の目標は、優れた社会保障行政の支援を通じて、グローバル化する世界の社会的側面としてダイナミックな社会保障を推進することである。」

「ISSA は 1927 年に設立され、ジュネーブの国際労働機関事務局内に事務局を置く。ISSA には現在、147 カ国の 344 団体が加盟している。」

「ISSA は加盟機関と共に、管理・業務効率、社会保障改革プロセス、社会保障の適用範囲の拡大、人口動態の変化がもたらす持続可能性の問題、および国際レベルにおけるダイナミックな社会保障の推進の 5 つの重点分野に取り組んでいる。」

はじめに

危機の時代の社会保障

人への投資は引き続き不可欠である

2008 年には、社会保障の権利を現代社会の基本的な柱として正式に記した世界人権宣言の採択 60 周年が祝われた。世界中に社会保障の基盤を強固にし、社会保障の範囲を拡大させるにあたって、この数十年でいかに大きな進歩が得られたかが改めて確認された。

しかしこのイベントを凌ぐ重要性を持って捉えられたのは、世界的な金融・経済危機が広がったこと、そしてそれが年金、雇用および医療制度に多大な影響を及ぼしたことであった。金融危機は、必要時に人々を保護するにあたって社会保障が果たす極めて重要な役割について明らかにしているが、同時に社会保障制度に対して新たにすさまじい圧力をかけてもいる。この状況に対し、当協会は積極的な姿勢を取っていく必要があり、ISSA では加盟機関が有効な対応を打ち出せるよう支援するため、幅広いイニシアチブを実施している。

金融危機への対処

当協会の社会保障オブザーバトリー (Social Security Observatory) は、金融危機が、投資、給付金支給、保険料納付など社会保障制度に最初に与えた影響を査定し、それに対する加盟機関の対応を分析するための調査を実施した。ISSA は、他の国際機関と共に数々の主要なフォーラムに積極的に参加することで、国際レベルにおいて社会保障に関する意見を発信してきた。国際労働機関 (ILO) の社会保障局との協力のもと、2009 年 4 月には金融危機が社会保障に及ぼす影響に関

する専門家セミナーが開催され、その後も更なる活動が予定されている。

その他の重点分野として、昨年当協会は、社会保障の適用範囲を世界中の人々に拡大するために重要な活動を行い、大きな成果を挙げることができた。ISSA では、加盟機関とそれら機関の管理する社会保障制度に対するサービス向上に重点を置いている。期間中に実施された数多くの会合やイニシアチブのうちのいくつかは、ISSA がダイナミックな社会保障を実践する方法に焦点を当てたものであった。

アフリカにおけるダイナミックな社会保障

アフリカ大陸は 2008 年に当協会が特に重視していた地域である。アフリカ地域社会保障フォーラムが 11 月にルワンダで開催されたこと、また、アフリカの地域の発展とトレンドに関する報告書が初めて発行されたことによって、同大陸における社会保障の役割が改めて確認された。フォーラムでは、アフリカ中の社会保障機関が、広範囲に及ぶ課題に対処するためにどのように改革を実施しているか、そして、国の最も生産的かつ唯一の要素である人への投資をどのように拡大させているかが発表された。

この開催にあたり、社会保障への投資が経済的および社会的発展を強化し、多くの国民が経済成長に貢献しその恩恵を受けられるようにする安定性および結束性に貢献するものであることが確認された。4 回の地域フォーラムのうちの初回として、この開催は 2010 年に南アフリカで行なわれる世界社会保障フォーラムに向けての重要な足がかりとなった。

予防の文化を構築

労働の安全を全世界に広めるための、またこの分野における ISSA の取り組みの一里塚となったのは、2008 年 6 月、ILO との共催で韓国で行なわれた第 1 回安全衛生サミットにおけるソウル宣言の採択であった。ソウル宣言は、労働者の健康への投資を中心とした総合的、多部門的かつ予防的な職場文化を育てる社会保障機関の責任を確認し、政治課題における労働の安全と衛生の位置付けを引き上げる必要性を改めて表明したものである。我々は、この宣言が今後長年にわたり各国が実践する予防策の青写真となることを確信している。

2009 年初めにも、労働の安全の推進における ISSA の貢献が認められる出来事があった。ISSA は労働リスク予防に関する国際プレバー賞 (Prever International Award) をスペインで受賞したのである。

グッド・プラクティスの支持

ISSA は、社会保障機関の間でグッド・プラクティス(優れた実践)を特定し、共有することによって、それら機関の管理・業務能力を大幅に強化できると確信しており、当年 ISSA は、社会保障の管理におけるグッド・プラクティスの開発をさらに進め、認知度を上げるべく主導した。

ケニアとモロッコの機関には、両国におけるそれぞれの社会保障計画の改善に向けた取り組みに対し、第 1 回 ISSA アフリカ・グッド・プラクティス賞が授与された。また、他にも 16 の提出案件が表彰状を受け取ったことも、同地域を通じて高い関心を集めた。今後のグッド・プラクティス・コンテストは、2009

年に南北アメリカ、アジア太平洋、そして 2010 年にはヨーロッパを対象に実施される。

地域的な支援の拡大

新しい地域構造を確立することにより、グローバルな視点と地域的なインパクトとを融合させるという我々の目的は、既に多くの加盟機関にとって現実となり始めている。南アフリカ連絡事務所および東南アジア連絡事務所の開設、並びに欧州地域ネットワーク(European Regional Network)の設立は、ヨルダンにある既存の事務所とともに、加盟機関のニーズや優先事項に対して柔軟かつ迅速に対応する体制を ISSA にもたらすものである。2009 年には南北アメリカ、アフリカおよびアジアにも事務所が開設される計画であり、ISSA による加盟機関への支援はさらに拡大される。

加盟機関へのサービスの向上

ISSA は引き続き、加盟機関へのサービスを支える管理・情報システムを強化している。新しい電子ツールの導入により、事務局の効率および通信機能は向上し、効果的な計画の実施により多くの資源を集中させることができるようになった。

2008 年 6 月に新しい社会保障ウェブポータルが立ち上げられたことにより、ISSA の情報サービスは、さらに大幅に進化することになった。このウェブポータル www.issa.int は、全世界の社会保障開発に関するニュース、分析および文書など、総合的な情報源となっている。ウェブポータルはオンラインの社会保障オブザーバトリーを通じて、ISSA だけが持つデータベース(世界各国の改革、スキーム解説、年金制度のモニタリングを含む)にアクセスする新しい方法を提供している。アラビア語、中国語およびロシア語でのコンテンツを追加するなど、ウェブポータルの規模も漸次拡大している。

国際的協調の強化

その業務のすべての面において、ISSA は引き続き国際レベルにおける協力および協調を強化・拡大してきた。ILO との緊密な連携は、適用範囲の拡大や金融危機に対する社会保障の対応などの特定の分野における定期的な合同計画や協力を通じて強化されてきた。ISSA は世界銀行、OECD およびその他社会的保護に関連する会合に積極的に参加している。予防の分野における協調は、国際労働衛生委員会との協定に調印したことでさらに拡大した。社会保障に関する米州会議およびイペロアメリカ社会保障機構との協力は、共同宣言を通じて、様々な分野において強化された。この年次報告 2008-2009 年は、1 年間の実績を紹介し、全世界における社会保障の推進と発展における ISSA 特有の貢献を確認するものである。執筆時点で、経済危機の人的損失に対する懸念により、国の保証に基づくセーフティネットと、誰もがアクセス可能な社会保障制度の重要性の世界的認識の高まりが認められる。

ISSA 役員および事務局職員を代表して、私共は全加盟機関、技術委員会の委員長、並びに連絡事務所および期間中に実施された様々なイベントの受入国への感謝を申し上げたい。

社会保障と、その核をなす人的資本への投資が、今ほど重要性を持つようになった時代は過去にはほとんど見られなかったほどである。ISSA 加盟機関の努力を結集し戦略を共有することは、来たるべき時期の課題に立ち向かうために不可欠な条件である。

独自のグローバル・プラットフォーム

国際社会保障協会

全世界の社会保障の推進と発展

ISSA は各国の社会保障機関を一つにつなげる筆頭の国際組織である。ISSA の目標は、優れた社会保障行政の支援を通じて、グローバル化する世界の社会的側面としてダイナミックな社会保障を推進することである。ISSA は 1927 年に設立され、ジュネーブの国際労働事務局本部内に事務局を置く。

ISSA は、世界中でダイナミックな社会保障制度・政策を構築し推進するため、加盟機関に様々な情報や専門家の助言、調査や討論会の機会を提供している。ダイナミックな社会保障というビジョンは ISSA の行動の枠組みをなす。ISSA のマンデート(委託された権限)に則して、ダイナミックな社会保障は、社会保障におけるより良い成果と社会保障機関が持つ能力をつなげるものである。

プログラムの優先事項

現行の 3 年間(2008-2010 年)の期間中、ISSA 事業としては、加盟機関と共に次の 5 つの重点分野に取り組んでいる：

- 管理・業務効率
- 社会保障改革プロセス
- 社会保障の適用範囲の拡大
- 人口動態の変化がもたらす持続可能性の問題
- 国際レベルにおけるダイナミックな社会保障の推進

幅広いプロジェクトや活動を実施するため、ISSA 事務局は技術委員会、並びに予防に関する特別委員会とその国際予防部門からなる独自のネットワークと緊密に連携している。ISSA は 3 年ごとに 4 回の地域社会保障フォーラムと、多数のトピックに関連した技術セミナーと社会保障の重要なテーマに関する国際会議を開催する。世界社会保障フォーラムは南アフリカのケープタウンで、2010 年 11 月 29 日から 12 月 4 日までの日程で開催される。

ISSA は、主としてその新しいウェブポータルを通じて、各国の社会保障プログラムの比較データおよび主要な問題に関する調査や政策分析の結果を、モニター(観察)し発信している。当協会は、グッド・プラクティスの収集と交換を促進させ、知識の移転や意見の支援を通じて社会保障の改善を推進している。ISSA は ILO および社会保障の領域で活動するその他国際組織との協力関係を維持している。

ISSA 技術委員会

11 の技術委員会は、ISSA 加盟機関の専門家で構成され、3 年間の枠組みの中で幅広い会合や調査を行う。現在、ほとんどの技術委員会では、人口動態の変化が社会保障制度に及ぼす影響の問題を優先事項としている。

1. 雇用政策と失業保険
2. 統計的、保険数理的および財務的研究
3. 家族給付
4. 予防に関する特別委員会
5. 労働災害と職業病に対する保険
6. 情報通信技術
7. 社会保障基金の投資
8. 老齢・障害・遺族保険
9. 医療・疾病保険
10. 共済組合
11. 組織、管理および革新

加盟機関

他の様々な国際機関とは違って、ISSA の加盟機関は省庁や半官半民の機関、自治機関等である。2009 年 4 月末現在、ISSA には世界 147 カ国の 344 の組織(265 の正会員と 79 の準会員)が加盟している。

地域サービス

ISSA は各地域の利害や求めに応じて調整したサービスを加盟機関に提供している。アフリカ、アラブ諸国および東南アジアには連絡事務所が設立され、また、西アフリカと南アジアにも新たに事務所の設立が予定されている。ヨーロッパでは加盟機関が地域ネットワークを立ち上げた。

執行機関

ISSA を支える 3 つの法定機関は、総会 (General Assembly)、評議員会 (Council) および役員会 (Bureau) である。

総会は、当協会の規約制定会議であり、ISSA のすべての加盟機関が直接代表として参加する最高位の法定機関である。総会は、ISSA の運営の枠組みを確立する規約の条項を定める。

評議員会は、当協会の選挙機関であり、少なくとも 1 つの団体が ISSA の正会員になっている国の名義上の代表で構成される。主要な機能は、役員を選出し、活動のプログラムを設定し、予算を決定することである。評議員会は、当協会の財務記録および取引を確認する監査委員会を選出する。

役員会は、当協会の管理機関であり、ISSA の役員および世界の各地域を代表する選出メンバーで構成される。役員会は、当協会の活動プログラムおよび予算を決定し、監視し、評価する。また、加盟申請についての判断を下す。

選出された ISSA の役員は、会長のコラソン・デラパス・ベルナルド(フィリピン)、副会長のフィデル・フェレーラス・アロンソ(スペイン)、財務担当のウィム・フランセン(オランダ)、事務総長のハンス・ホルスト

コンコルスキー(デンマーク)である。

ISSA の連絡事務所および技術顧問

アフリカ

南アフリカ連絡事務所 : 南アフリカ、プレトリア所在の南アフリカ社会開発省が拠出・運営

西アフリカ連絡事務所* : コートジボワール、アビジャン所在の社会保険機関 (Social Insurance Institute) - 国立社会保険基金 (National Social Insurance Fund) が拠出・運営

アフリカ技術顧問 : ガーナ、アクラ

南北アメリカ

英語圏カリブ地区技術顧問

バルバドス、クライストチャーチ

アジア太平洋

アラブ諸国連絡事務所: ヨルダン、アンマン所在の社会保障団体が拠出・運営

南アジア連絡事務所* : インド、ニューデリー所在の被用者州保険制度 (Employee's State Insurance Corporation) が拠出・運営

東南アジア連絡事務所 : マレーシア、クアラルンプール所在の被用者準備基金が拠出・運営

ヨーロッパ

欧州ネットワーク : オランダの社会保険銀行が議長を務める運営委員会

当年の活動を振り返る

変化する世界におけるダイナミックな社会保障

事業のハイライト 2008-2009 年

当協会は、加盟機関や提携機関などと共に、社会保障を全世界において推進するための ISSA の新しい3カ年の事業の最初の部分を通じて、幅広い活動とイニシアチブを実施してきた。

《アフリカ地域社会保障フォーラムは、同地域において社会保障が果たす重要な役割を確認した》

アフリカに注目

アフリカ大陸は年間を通じて大きな関心を集めた。第1回アフリカ地域社会保障フォーラムは、地域

的傾向や社会保障指導者の問題などに関するネットワーク構築や知識交換のためのユニークな場を提供することとなった。2008年11月18日から20日までルワンダのキガリで開催されたこのフォーラムには、アフリカ31カ国からの参加者や、地域の機関や国際組織の代表など、300人以上が出席した。フォーラムを主催したのはルワンダ社会保障基金(Social Security Fund)である。

ISSAによるダイナミックな社会保障の戦略的ビジョンに基づき、フォーラムの会議では、地域報告書の第一弾である『アフリカのためのダイナミックな社会保障：発展に向けての計画(Dynamic Social Security for Africa: An agenda for Development)』の情報を元にアフリカの社会保障の発展と傾向に焦点が当てられた。プログラムは、優れた統治を強化するとともに老齢年金や医療保険の適用範囲を拡大させる方法を探るものである。社会がアフリカの現在および将来の社会経済的課題に対処できるようにするに当たり、社会保障の貢献度の大きさをグローバル化の文脈で話し合うことで、第1回アフリカ社会保障サミットはフォーラムでの話し合いを、技術的なレベルから政策的なレベルに引き上げ、開発に当たっての社会保障の重要性に関する力強いメッセージを意思決定者たちに対して発信した。

ISSAは2010年に南アフリカのケープタウンで開催される世界社会保障フォーラムに向けて、今後数ヶ月のうちに南北アメリカ、アジア太平洋、そしてヨーロッパで地域フォーラムを開催する予定である。

社会保障の拡大

ISSAは、その戦略の中心的要素として、社会保障の適用拡大に関する知識の収集および分析を行うプロジェクトを、カルメロ・メサ＝ラゴ博士(Dr. Carmelo Mesa-Lago)のリーダーシップの下に立ち上げた。このプロジェクトはILOと緊密に協力し、さらに他の国際組織、社会的パートナーおよびNGOなどの参加によって、ISSA加盟機関が、特に低所得国における社会保障の拡大に貢献できる方法を探るものである。

年間を通じて幅広い会合プログラムが実施され、ISSAの技術委員会や加盟機関なども積極的に参加した。

新たな政策的課題への対処

2008年10月にガボンで開催された国際会議は、特に小国の社会保障制度が直面する具体的な課題に焦点を当て、資源をプーリングすることによる利益の可能性等、新しい協力の形を探った。

金融危機が年金制度に与えた初期の影響は、2008年10月にキプロスで開催された専門家セミナーで考察された。アゼルバイジャン共和国の国立社会保護基金(State Social Protection Fund)が10月にバクーで開催したセミナーでは、特に(社会的、経済的に)移行期にある国々において、社会保障機関による情報通信技術の活用がどのように発展してきたかについて研究が行われた。

年金改革に関連する技術的な課題と政策的な課題とは、2008年12月にチリで開催された、ラテンアメリカ、中欧・東欧および独立国家共同体の機関による上級レベルの地域間会合における一番の関心事であった。ISSA、社会保障に関する米州会議、そしてイベロアメリカ社会保障機構によって採択された共同宣言の中で、3組織は社会保障適用範囲の拡大に向けてより緊密な連携を約束した。

人口動態的・社会的な変化は、多くの国の家族政策に影響を及ぼしており、2009年3月にウルグアイ社会保険銀行(Social Insurance Bank of Uruguay)の主催によりピリアポリスで行なわれたセミナーで、専門家は新たな傾向と政策選択を分析した。

参加者は、家族政策は貧困と社会的疎外と戦い、女性と若者に雇用の機会を開くための主要な手段であることに合意した。

予防的な安全衛生文化の構築

6月29日から7月2日まで大韓民国ソウルで行なわれた第18回労働安全衛生に関する世界会議には、100を越える国々から産業界のリーダー、政策決定者、専門家を含む約4,000人の人々が出席した。

3年ごとにISSAとILOとが共同で開催するこの労働安全衛生に関する世界会議は、情報、知識および経験の交換を通じて「予防的安全衛生文化」の発展に貢献することを目的としている。第18回世界会議は、韓国産業安全衛生公団が「職場での安全衛生:社会的責任」というテーマで主催した。ISSAの予防に関する特別委員会およびその国際予防部門が準備した国際フィルム・マルチメディア・フェスティバルが、イベントのハイライトであった。

この世界会議に先立って、政府閣僚、主要な多国籍企業のCEO、社会保障指導者、上級安全衛生専門家、そして雇用者や労働者の代表を含む上級レベル代表者50人が参加する第1回安全衛生サミットが開催された。

サミットでは、業務上の事故と疾病を削減するための協力を強化するに当たって、雇用者、労働者および政府にとっての基準となる、史上初めての労働安全衛生ソウル宣言に出席者が署名した。

「サミットでは、雇用者、労働者および政府にとっての基準となる、史上初めての労働安全衛生ソウル宣言に出席者が署名した。」

全体閉会式の中で、トルコ労働・社会保障省のムスタファ・コヌク次官代理(Deputy Undersecretary)は、2011年にイスタンブールで開催される第19回労働安全衛生に関する世界会議の自国での開催を改めて歓迎した。

国内の予防文化を提唱し、この文化を確立するに当たって社会保障機関に中心的な役割を果たすよう求めるISSAは、世界会議の後、様々な会合でソウル宣言をアピールしている。中でも、2009年3月にスペインのカナリア諸島で行われた職場予防文化に関する国際フォーラム(International Forum on Workplace Prevention Culture)では、業務リスク予防に関するカナリア諸島声明(Canary Island Statement on Occupational Risk Prevention)が採択された。ISSAは宣言への賛同の輪を広げるために今後も数々の積極的な活動を行っていく予定である。

2008年10月、災害保険制度の課題とグッド・プラクティスに関するセミナーがコロンビアで開催され、予防、リハビリテーション、特定の年齢層に対する保険のそれぞれの分野の専門家が集まった。会合では、人口動態変化が労働災害保険制度、職業性疾病および健康管理に及ぼす影響や、常習的欠勤が増加傾向にあるという問題について確認された。

地域ネットワークとプラットフォーム

ISSA の地域戦略は、2008 年の連絡事務所の新設によってさらに強化された。マレーシアの被用者準備基金が運営する東南アジア連絡事務所は、7 月にクアラルンプールで落成式が行われた。9 月には、南アフリカ社会開発省が運営する南アフリカ連絡事務所がプレトリアにオープンした。

両連絡事務所は、それぞれの地域内の ISSA 加盟機関の具体的なニーズにターゲットを絞った活動プログラムを実施し、それら機関の技術・管理能力の向上と社会保障に関するグッド・プラクティスの共有を支援する。

ヨーロッパでは、ISSA 加盟機関が、地域間の連携を確立し特定の技術的な問題に関する経験を共有するためのネットワークを立ち上げることを選択した。

11 月下旬にポーランドで行われた第 1 回セミナーでは、障害年金制度と労働市場への取り込み、地域的に増加傾向にある若年障害者の給付依存度を改善させる試みなどが取り上げられた。2009 年 5 月に「顧客本位のサービスの提供」というテーマで行われた会合には、様々な組織の上級管理者が集められた。欧州ネットワークの運営委員会は、オランダ社会保険銀行が議長を務める。

ヨルダンにあるアラブ諸国の連絡事務所は、12 月にカタールで行われた社会保障責任者を対象とした業績向上研修セミナーなど、地域内の加盟機関に提供するサービスをさらに充実させている。

2009 年には南アジアと西アフリカの連絡事務所が新設される予定であり、他の地域における事務所やネットワーク設立の計画も検討されている。

〈新しい ISSA プログラムの中でも革新的な要素は、グッド・プラクティスを奨励し共有することである。〉

グッド・プラクティスの奨励

新しい ISSA プログラムの中でも革新的な要素は、社会保障機関によるグッド・プラクティスを奨励し共有することである。ISSA はグッド・プラクティスを集めた新データベースをウェブポータル上で公開した。これは、あらゆる地域の ISSA 加盟機関が提出した様々なイニシアチブを選んで集めたものである。初のグッド・プラクティス賞コンテストは 2008 年にアフリカを対象に実施され、ケニアの国立社会保障基金 (National Social Security Fund) とモロッコの国立社会保障基金 (National Social Security Fund) のエントリーが受賞した。他にも 16 のプロジェクトが表彰状を授与された。この賞は 3 年後に異なる地域を対象に贈られることになっており、2009 年には南北アメリカとアジア太平洋でコンテストが行われる。

*****【会議開催状況】*****

2008 年 5 月、バミューダ

カリブ諸国における社会保障適用範囲の拡大

カリブ地域の社会保障指導者会合は、同地域内での労働力の移動が活発になっていることが新たな課題を生んでいる中で、移住労働者が、雇用されている国の社会的保護制度の下でより多くの保護を受けられるよう努力を拡大していく必要がある、と訴えた。この訴えは、ハミルトンにある ISSA によって招集された地域の社会保障機関の技術セミナーで発せられたものである。

2008 年 6 月、大韓民国

労働者の安全と衛生への投資

6 月、100 を越える国々から産業界のリーダー、政策決定者、専門家を含む約 4,000 人の人々がソウルに集合し、ISSA と ILO とが共催する第 18 回労働安全衛生に関する世界会議に出席した。この世界会議に先立って、官民の決定権者約 50 人が参加する上級レベルの安全衛生サミットが開催され、初めて労働安全衛生宣言が採択された。

2008 年 7 月、マレーシア

東南アジアの加盟機関を支援するための連絡事務所

ISSA は、協力体制を強化し加盟機関による緊密なネットワークを作り上げるための取り組みの一環として、東南アジア向けの新しい連絡事務所を開設した。連絡事務所はマレーシアの被用者準備基金が運営し、7 月にクアラルンプールで開催されるイベントの席で正式にオープン運びとなった。

2008 年 9 月、スイス

社会保障基金の金融リスクを抑制する

ジュネーブでの ISSA セミナーで、社会保障投資の専門家が、新たな金融リスクを抑制するために投資ポートフォリオの多様性を高める方法を検討した。このセミナーは、資産の過剰な集中と分散の欠如がもたらすリスクに対処するための適切なツールを特定することに焦点を置き、社会保障機関と民間企業の両方の専門家が参加して行われた。

2008 年 9 月、南アフリカ

南アフリカに ISSA 連絡事務所を新設

アフリカ大陸における社会保障の適用を強化するための取り組みの一環として、ISSA はプレトリアに、アフリカでは初となる連絡事務所を新設した。この連絡事務所では、南アフリカ地域の 14 の ISSA 加盟機関の具体的なニーズにターゲットを絞った活動プログラムを実施する。連絡事務所は南アフリカ社会開発省が運営する。

2008 年 10 月、ガボン

小国の社会保障制度が協力強化を目指す

2008 年 10 月に ISSA がガボンの国立社会保障基金 (National Social Security Fund) と協力してリーブルビルで開催した国際会議において、アフリカおよびその他の地域の小国の社会保障機関の代表は、資源のプーリングや協力強化によって得られる潜在的利益について検討した。

2008 年 10 月、キプロス

社会保障年金制度の将来

40 カ国から 100 人以上のエコノミスト、保険数理士、統計学者などを集めて開催された国際会合で、国際経済が激変する中にある社会保障年金制度の設計および持続可能性について話し合われた。リマソルで行われたこのセミナーは、キプロス労働・社会保険省と共同で、ムハンナ財団(The Muhanna Foundation)の協力を得て ISSA が開催したものである。

2008 年 11 月、ルワンダ

アフリカ地域社会保障フォーラム

2008 年 11 月にキガリで開催された第 1 回アフリカ地域社会保障フォーラムでは、アフリカの社会保障指導者や政策決定者を集めた上級レベル会合として、アフリカの発展計画において果たす社会保障の役割を中心的に取り上げた。このイベントの中で、ケニアとモロッコの社会保障の管理を向上させるためのイニシアチブは、第 1 回 ISSA アフリカ・グッド・プラクティス賞を受賞した。4 回の地域フォーラムのうちの初回として、この開催は 2010 年に南アフリカで行なわれる世界社会保障フォーラムに向けての重要な足がかりとなった。

2008 年 12 月、カタール

アラブ社会保障責任者が戦略計画強化

アラブ諸国、アフリカおよびアジアの 13 の ISSA 加盟機関から社会保障責任者が参加した研修セミナーでは、社会保障サービス強化のための戦略計画とバランス・スコアカードの実施が焦点となった。イベントは ISSA アラブ諸国連絡事務所が、カタール退職・年金機関(General Retirement and Pension Authority of Qatar)の招きに応じて主催したものであり、2008 年 12 月にドーハで行なわれた。

2009 年 4 月、スイス

金融危機の時代の社会保障

ILO 社会保障局と協力して開催された専門家会合は、世界的金融危機が社会的保護制度および社会保障制度に及ぼす影響について、投資、年金および保険料納付などの要素を含めて考察し、危機の時代において社会保障が人々の保護や所得の確保に果たす役割について話し合った。

コミュニケーション

ISSA 情報源

社会保障の情報を共有する

ISSA のコミュニケーション戦略では、社会保障に関する専門家の知識と情報の作成と普及を優先する。

www.issa.int

ウェブポータル

ISSA のコミュニケーション戦略の礎石である新しいウェブポータルからは、社会保障開発に関するニュース、分析およびデータなどへアクセスすることができる。オブザーバトリーは、全世界の社会保障開発に関して、定期的に更新される情報へのアクセスを提供している。また、幅広いラインアップの出版物やマルチメディア・リソースも入手可能である。ISSA の公式 4 言語のほか、2009 年初めにはアラビア語、中国語、ロシア語でのサイトの閲覧も可能になった。

www-issanet.issa.int

ISSANET

加盟者情報共有プラットフォームである ISSANET は、加盟機関間の連携および情報交換のための環境を提供している。グッド・プラクティスを中心に知識を共有するための共通の場を提供しているほか、加盟機関による管理運営の改善経験を共有するための Solutions Wiki も用意している。

ISSA オンライン社会保障オブザーバトリー

社会保障オブザーバトリーは、ISSA ウェブポータルの重要な特色である。社会保障ニュース速報をモニタリングし、時事的な問題を紹介し、各国の社会保障制度に大きな進展があった場合はその分析を行ったりしている。

オブザーバトリーはまた、社会保障に関する複数の独自のデータベースを有している。具体的には、世界中の社会保障制度の概観、重要な社会保障改革のモニタリング、補足的年金制度・個人年金制度の要約、国立の社会保障および関連法規へのアクセスという内容になっている。国別プロフィール (Country Profile) は、南北アメリカ、アフリカ、アジア太平洋、そしてヨーロッパにおける社会保障制度の包括的概観を示すものである。170 以上の国と地域の制度が説明されており、補足的年金・個人年金に関する情報も 60 以上の国についてカバーしている。ウェブポータルではまた、社会保障に関する総合的な文書サービスも提供しており、ISSA の出版物や定期刊行物にオンラインでアクセスできるほか、外部の資料についても書籍や記事の書誌調査機能を備えている。

出版物およびニュースレター

『国際社会保障レビュー』

『国際社会保障レビュー』は 1948 年に第 1 号が出版され、現在では社会保障分野における世界でも有数の国際季刊誌である。たとえば年金制度改革の特集 (2008 年 4 月-6 月号) など、世界の第一線で活躍する社会保障の専門家が時事的なテーマに関する国際比較や掘り下げた議論を展開している。また、様々な国の社会保障制度を研究する記事も含まれている。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語で作成

『社会政策ハイライト』

この ISSA の政策に関する定期刊行物は、社会保障の世界における主要な問題や重要な進展について簡潔な分析を行っている。また、時事的な問題を読者に分かりやすい形式で幅広くカバーしている。

アラビア語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語で作成

電子ニュースレター『Social Security Observer』

『Social Security Observer』は ISSA が四半期ごとに発行する電子ニュースレターで、世界の社会保障の発展に焦点を当てる。このニュースレターには、社会保障に関する主要な調査や政策問題についての分析、重要な改革の要約、お勧めの最近の出版物、そして ISSA のニュースや主要なイベントの紹介などが含まれている。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語で作成

ISSA 加盟機関向け電子ニュースレター『Update』

ISSA 加盟機関向けのニュースレターである『Update』は、年に 10 回発行され、当協会内での出来事について加盟機関に知らせることを目的としている。このニュースレターは様々な地域から厳選されたニュースを伝えたり、技術委員会の仕事を紹介したりするほか、ISSA のイベント、活動、サービスについての情報も提供している。

アラビア語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語で作成

『テクニカルレポート』

『テクニカルレポート』は ISSA の技術委員会の責任の下に作成される主要な報告文書である。この分析報告書は専門家によって作成され、重要な社会保障に関する問題を幅広くカバーしている。『テクニカルレポート』は ISSA の「社会保障エッセンシャル (Social Security Essentials)」シリーズの一環であり、定期的に新しい報告書が作成されている。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語で作成

『アフリカのためのダイナミックな社会保障：発展に向けての計画 (Dynamic Social Security for Africa: An agenda for Development)』

これは地域報告書の第一弾である。アフリカにおける社会保障の最近の発展と傾向の中でも最も重要なものについて分析し、また、管理運営の改善や適用範囲の拡大などいくつかの極めて重要な分野における社会保障の進展に注目している。報告書はアフリカ大陸全域からの例を挙げ、社会保障政策が貧困削減、医療アクセス、高齢者や非正規雇用分野で働いていた人々など以前は適用が及んでいなかった人々への保護の促進などの分野の強化にどのようにつながっているか詳細に論じている。

英語およびフランス語で作成

『世界の社会保障制度一覧』

アジア太平洋、アフリカ、南北アメリカ、ヨーロッパの各巻で構成されるこのシリーズの研究成果をまとめたものが、2年間にわたり6ヶ月ごとに出版される。各巻はそれぞれの地域の社会保障計画の特徴に焦点を当てている。『全世界の社会保障プログラム』は、米国社会保障庁と ISSA との協力にもとづいて作成されている。

英語で作成

『世界の補足的・個人年金制度一覧』

この出版物は、補完的・補足的年金制度の国立社会保護制度と退職後の適切な所得の確保に果たす役割が重要性を増していることに焦点を当てている。58 の国と地域の任意・強制の企業年金計画および強制個人年金制度の規制と監督について掘り下げた情報を掲載したこの出版物は、ISSA、国際年金監督者機構、および経済協力開発機構という、年金分野の主要 3 国際団体の協力によって完成した。

英語で作成

www.issa.int/resources に他にも出版物を掲載。

ISSA 知識の移転に関する事実と数字

- 1冊 「アフリカの発展と傾向」に関する報告書
- 2回 『社会政策ハイライト』発行回数
- 2巻 『世界の社会保障制度一覧』作成
- 4回 ISSA の電子ニュースレター「Social Security Observer」発行回数
- 4回 『国際社会保障レビュー』発行回数
- 10回 ISSA の加盟者向け電子ニュースレター「Update」発行回数
- 57件 新しいグッド・プラクティス・データベース立ち上げの際の新規エントリー数
- 39カ国 補完的・個人年金データベースへの追加情報国数
- 63件 改革データベースへの最近改革情報追加数
- 92件 制度説明データベースへのプロフィール追加数
- 1, 175人 16の ISSA 会議への参加者合計数*
- 19, 277 会員用のエクストラネットである ISSANET の閲覧回数*
- 176, 328 新しいウェブポータル閲覧回数**

*共同開催イベントを除く

**2008年6月以降の新しい統計およびシステム